

そらこめ通信

No.9 2011.4発行

日頃より弊社のお米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

まず始めに、3月11日に東北地方並びに関東地方を襲いました巨大地震と大津波により被災された方々、さらには不幸にご親族、ご友人を亡くされた方々に対し心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。また、その後の原発事故に関連し、隣接する地域の農業や漁業における風評被害など、同じ1次産業を営む者として慰める言葉が見当たらないというのが正直な気持ちです。一日も早い復興を願うばかりですが、一人の農家として、また一人の消費者としてどんな手助けが出来るのか、長期的な目線で考えていかなければいけないと思っています。

4月になりました。育苗ハウスの建て込み等、田植えの準備も3月から始まっています。東北地方の事を考えるととても複雑な思いですが、生き物は待つはくれません。粛々と準備を進める中で、この世の無常というか様々な事柄を感じさせられる今日この頃です。



2月後半から除雪など春に向けた準備を開始



ハウスの組立作業(3月10日～3月20日)



大震災を報じる3月12日付の「日本経済新聞社」の記事です。日本国民全てが大きなショックを受けました。



大震災の翌日(12日)、複雑な気持ちのまま地域の五穀豊穡を祈願する恒例行事「地鎮祭」に参加…。



最新の高速播種機「みのる」を導入(3月17日)



精米した商品に糠や小米が混じるのを確実に防ぐ目的で、2台目の「小米取り機」を購入し、以前の機械に連結しました。



昨年末の土壌検査の結果から、圃場に「ケイ酸」を補うと共に、融雪を促す目的で大量の「ミネカル」をトラクターで散布しました。(3月23日)



購入した種籾を20キロずつに小分けします。(3月31日)



育苗ポットで使う土を作っています。購入土をロータリークラッシャーという機械にかけて細土攪拌し、20キロの袋に小分けします。(3月26日～27日)

こうしてみると、実に様々な作業が行われている事がお分かりになると思います。この後、小分けされた種籾は約12度の水に8日～9日間(積算温度が1000度くらいになるまで)浸水され発芽を促します。発芽後、新たに導入した播種機で育苗ポットに播種し、1ヶ月ちよつとの間ハウスで育苗、それから田植え作業になります。

今まで、何年も何十年も同様の作業が繰り返されてきました。しかし、3月11日の大震災を境に、いつもと何かが違うような気がします。それが何なのか良く判りません。こんなに科学が進歩していても自然の前には無力に近いという現実…。過去にも多くの災害が人類を苦しめてきたはずですが、今回は自然災害に加えて放射能という人類が自ら作り上げた目に見えない恐怖との戦いがあります。もしかすると、人類は超えていけない領域に知らず知らずのうちに足を踏み入れてしまっているのかも知れません。

どんな世の中になっても作物を守るのが我々の役目です。これからもよろしく願いいたします。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ

<http://www.sorachi-kome.jp/>

「生産日誌」日々更新中です(見て下さいね)